



## イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 580 回 我が家は益々、「アンパンマンだらけ」

2014.6.8

孫と戯れるのが、至上の楽しみになった。

1 歳半になる女の子だが、いよいよ腕白ぶりを発揮してきた。

起きている間は、四六時中動き回っている。目の前にあるものは、ほとんど興味の対象で、その好奇心たるや、想像を絶するものがある。一瞬たりとも止まらない彼女の行動力に、「ジージ」たる祖父は、ついていくのがやっとの思いだ。

その孫が、微動だに動かなくなる時がある。「アンパンマン」だ。

アンパンマンの動画と同時に歌が流れると、テレビの前で、小さく、固まってしまう。

大人が感心するほど、ストーリーやキャラクターの性格を理解しているはずがない、乳幼児たちが、他にも数多(あまた)、アニメはあるにもかかわらず、なぜか、アンパンマン??

孫にも負けず、劣らぬ「ジージ」たる好奇心オヤジ、「なんで、アンパンマンなのか」追求したくなってきた。

アンパンマンは、昨年 10 月、心不全のため 94 歳で亡くなった「やなせたかし」のキャラクター、40 年以上前の 1973 年に、「あんぱんまん」として誕生した。当時は平仮名だった。

その体型は、当初 8 等身だったのだが、そのうち 3 等身へと変わっていった。

ノーベル賞受賞者のコンラート・ローレンツ(オーストリアの動物行動学者)は、人間を含む動物に共通して見られる「かわいらしさ」の基準として、「体に比べて頭が大きい」「目が大きいこと」「頬ぺたがふっくらしていること」をあげているが、アンパンマンも登場人物はほとんどが丸いシンプルな体型をしており、頭は体に対してかなり大きい。

更に乳幼児は、輪郭線の曖昧な絵を認識することが苦手と言われている。

赤ちゃんは視覚発達が未熟で 0.1 以下の近眼の状態で生まれてくる。赤ちゃんの視力は 1 歳頃によく 0.6 程度、大人と同じように 1.0 を超えるのは、なんと 3 歳くらいかららしい。

幼い赤ちゃんがアンパンマンに魅かれる理由の一つには、「アンパンマンの顔への選好」があるようだ。生まれて間もない赤ちゃんは角ばったものよりも、丸みを帯びた形状のものを好む傾向がある。大きな丸型の輪郭と、曲線的なパーツから成るアンパンマンの顔は、その特徴をよく揃えている。アンパンマンの絵は、はっきりとした色彩と輪郭線で描かれているので、幼い赤ちゃんにとって分かり易いかもしれない。赤や原色が好きな幼児たちにとって、アンパンマンの赤に反応しやすいのだろう。

こんなことが、アンパンマンの魅力の一つだと結論付けた。

我が家が益々「アンパンマンだらけ」になるだろうこと、屁理屈屋のジージも、納得である。